

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A(DA201)			担当教員	坂本雅俊		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>授業は年間を通してすすめる演習プログラムを用いて行う。そのため学生が、演習プログラムに参加することで、専門性を軸に人間性を豊かにする諸能力を身に付けることをねらいとする。</p> <p>1、演習室においてゼミ形式の授業を行う。社会に必要な「パフォーマンス」の力を身に付ける</p> <p>2、福祉施設へ出かけて行きボランティア公演研修を行うことで、利用者の生きがいづくりに寄与するとともに、利用者の真の姿を知る。</p>							②④⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	生きがいを求める福祉利用者の課題に対して、公演を通して解決を図ることができる。					授業での意見交換	10%
情報収集、分析力	福祉施設利用者のニーズを分析し自己及び社会の成長に役立てることができる。					授業での意見交換	10%
コミュニケーション力	ボランティアシップに基づいて、多様な人々と文化的交流を図ることができる。					公演	40%
協働・課題解決力	地域を巻き込んで、アートな創作活動に携わることができる。					公演	30%
多様性理解力	利用者とのアート活動を通して、共生社会を実現することができる。					授業での意見交換	10%
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>自分の意見を発表すること。その代表的な発表を授業中にフィードバックし学生間で共有する。授業で行うワーキング、情報を収集、多様性を理解で30%を評価する、コミュニケーション力、課題解決として公演することで70%の評価を行う。これらは最終回に振り返り発表会を行い、達成度として評価する。</p>							
授業の概要							
<p>演劇ボランティア公演を創作する。そのための福祉施設利用者の暮らしへの関心を持ち、課題解決としての意見交換を行う。その際、教師が適切に介入して学生の成長を促す。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：杉本敏夫編（2017）『高齢者福祉論』ミネルヴァ書房</p> <p>参考書：黒木保博編（2016）『福祉グループワークの理論と実際』ミネルヴァ書房</p> <p>指定図書：関家新助（2011）『社会福祉の哲学』中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>学生だからこそできる様々な研修を体験してください。そのことが将来にソーシャルワーカーとなったとき、プロフェSSIONALとしての「価値観」を磨くことになる。専門基礎演習は学生生活設として活用して欲しい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	学生同士を知る。ゼミの運営方針を知る。	予習：復習：シラバスを読み前期の計画を共有する。
2	社会福祉のレポートについて	レポート作成のための資料の検索方法について理解できる。原著論文を書写して提出できる。	予習：統計資料を読む。復習：書写する。
3	社会福祉の事例検討	高齢者の施設を見学し、交流会を調べる。時代劇について知ることができる。	予習：訪問先を予習する。復習：記録する。
4	社会科学的視点について	生きがいに関する資料を用いて、福祉利用者の生きがいについて、時代劇と関連づけて検討できる。	予習：生きがい論文を読む。復習：生きがいについて考える。
5	社会（的）問題とは何か	福祉ボランティアの歴史とその意義を理解することができる。	予習：配布資料を読む。復習：課題について考える。
6	ボランティアシップについて	ボランティアシップについて理解できる。	予習：図書館で検索する。復習：資料をまとめる。
7	時代劇の着物等の扱い方を知る	福祉ボランティア公演に必要なことがらを知ることができる	予習：備品管理する。復習：整理しリストを作成する。
8	ボランティア公演における時代劇と落語劇	福祉ボランティア公演の全体の流れを企画できる。	予習：シップを調べる。復習：福祉ボランティアを調べる。
9	ボランティア公演の準備	福祉ボランティア公演の題目選択や構成・脚本作成ができる。	予習：リハーサル。復習：課題を創作する。
10	ボランティア公演の練習	時代劇衣装の扱いや舞台での礼節を理解できる。	予習：時代考証を調べる。復習：芸能の礼節を深く考える。
11	ボランティア公演出張	福祉ボランティア公演を行うことができる。	予習：準備に備える。復習：思い出を振り返る。
12	ボランティア公演の振り返り	福祉まつりや高齢者との交流会へ参画することができる。	予習：ICTで調べる。復習：体験をノートする。
13	ボランティア公演の次回企画	高齢者の施設を見学し、交流会へ参画する。次回について企画できる。	予習：提供資料を読む。復習：企画を構成する。
14	振り返り	前期に身に付けたボランティア公演の技能を振り返ることができる。	予習：提供資料を読む。復習：討論後の資料をまとめる。
15	前期のまとめ	振り返りと総括、今後の方向を話し合うことができる。	振り返りと発表。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A (DA201)			担当教員	中村 龍文		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>社会福祉を学ぶ者にとって、医学の知識は必要不可欠なものである。専門力、情報収集・分析能力、コミュニケーション力、協働・課題解決力および多様性理解力の獲得を目指して、医学と関連した人体の生理機能、健康、保健、疾病の予防などの分野で社会福祉に関係する様々な興味ある項目について、ゼミ生自身が主体となって、テーマを選び、関係した資料を収集し、それらをもとにまとめ、わかりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標とする。さらに、論文執筆の基礎について学ぶ。</p>							④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 自分のテーマについて、重要な箇所を指摘できる。 論文の形式、構成について説明することができる。 グループディスカッションにおいて、問題点を指摘できる。 				<ul style="list-style-type: none"> 自己の発表 課題レポート グループ発表 	5% 5% 5%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 図書館で文献検索ができる。 収集した文献を読み内容を分析できる。 インターネットを活用した、資料の収集ができる。 				自己の発表	15%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 自分のテーマについて、論理的に発表することができる。 グループディスカッションに参加し、十分に討議できる。 				<ul style="list-style-type: none"> 自己の発表 グループ発表 	20% 20%	
協働・課題解決力	自分が選んだテーマに関して、社会福祉的側面からある一定の見解を持つことができる。				課題レポート	20%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだテーマに関連した分野のことも理解ができる。 グループディスカッションにおいて、内容を十分に理解できる。 				グループ発表	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験は行なわない。自分で決定した発表のテーマについて課題レポート(25%)を作成し、どれ位深く掘り下げて調べているか、また自己の発表(40%)でのプレゼンテーションにおいてどれ位わかりやすくまとめているかが評価の基準となる。また、グループディスカッション(35%)の内容についても評価したい。その都度フィードバックを行い確認する。</p>							
授業の概要							
<p>将来の卒業研究に向けて、その基礎的な学習として発表用のテーマの選択、文献・資料の収集の方法、発表用のレジユメのまとめ方などを学ぶ。各ゼミ生によるプレゼンテーションが行われた後に、ゼミの全員によるディスカッションを行う。プレゼンテーション担当者は、質疑に耐えられるよう準備を行わなければならない。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：とくに指定しない。 参考書：必要なものは適宜紹介する。 指定図書：大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法 改訂第二版 玉川大学出版部</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>教員の講義を学生が聴くという一方通行の授業では無く、ゼミの学生が主体的に何事も進めていって欲しい。プレゼンテーションの資料作りのために可能な限り図書館を利用してほしい。また、インターネット検索を含めた色々な文献検索の方法も習得して欲しい。社会の状況にも常に目を向けて欲しい。そのためには、色々な新聞やニュースを通して社会の大きな流れをつかんで欲しい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション①	自己紹介。ゼミの進め方についての説明。医学、医療、保健、健康などについての発表テーマについての説明。	復習：発表テーマを考えておく。
2	オリエンテーション②	発表方法の確認と、発表の分担を決定する。	発表テーマについて調べレジュメを作成する。
3	オリエンテーション③	テーマ設定の具体的な進め方について。	発表テーマについて調べレジュメを作成する。
4	テーマの発表・グループディスカッション①	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマの下調べ。
5	テーマの発表・グループディスカッション②	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマの下調べ。
6	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。③	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマの下調べ。
7	テーマの発表・グループディスカッション④	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマの下調べ。
8	テーマの発表・グループディスカッション⑤	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマの下調べ。
9	テーマの発表・グループディスカッション⑥	レジュメの作成と発表(担当者)。グループディスカッション。	発表の準備と予定されたテーマの下調べ。
10	就職の対策	キャリアセンターにて、今後の就職活動に向けての心構えと、具体的な就職活動についてのオリエンテーションを実施する。	就職活動について良く復習して理解しておく。
11	図書館での説明会	将来の卒業研究に向けて、文献検索の方法について具体的に指導を受けながら体験実習を行う。	文献検索法について復習する。
12	論文執筆の基礎①	レポート・論文の内容に必要な条件について学ぶ。	論文の条件について確認する。
13	論文執筆の基礎②	レポート・論文のオリジナリティー、論理的な構成の文書について学ぶ。	論文のオリジナリティーについて確認する
14	論文執筆の基礎③	レポートと論文の違い、本・書籍とレポート・論文の違いについて学ぶ。	レポートと論文の違いについて確認する。
15	全体のまとめ	半期のゼミを振り返り、各自の達成点、反省点をそれぞれレポートにまとめる。また、後期のゼミに対しての計画や希望を話し合う。	達成点、反省点を振り返り、確認する。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A (DA201)			担当教員	石橋 亜矢		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では福祉職を学ぶ者として、医学と関連した人間とは何かの理解を前提に、その人らしく生きる意味は何か、そのために必要とされる権利は何か、根拠を基にゼミ生全員で考える力を養いたいと考える。</p> <p>また、卒業研究の基盤となるように、基本的な研究過程および方法論に関する知識修得の為に、テーマに応じた課題の追及、クリティーク能力、ディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的なスキルの修得を目標とする。この演習を通して他の意見を傾聴するとともに自分の考えを明確にした上で、意見交換を行い、相互理解を図ることができることをねらいとする。</p>							②④ ⑥⑦ ⑧⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	・3福祉士に求められる課題についてエビデンスを追及し、具体的な解決策を整理し見いだすことができる。				プレゼンテーション、レジュメ作成	10% 10%	
コミュニケーション力	・福祉職としての役割や機能・連携（調整力）に関する知識を体系的に学習することができる。 ・常に人権を尊重した行動ができ、共によりよいゼミを創造していける豊かな感性を磨くことができる。				授業態度・参加	55%	
協働・課題解決力	・3福祉士において意義ある研究課題を探り、自主的に学習することができる。 ・メンバーと協働し共に考え、アサーティブなディスカッションを行うことができる。				ディスカッション参加 課題レポート	15% 10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業態度・参加」(55%)、「ディスカッション参加」(15%)とし、主体的な参加とアサーティブな姿勢を評価する。「課題レポート」(10%)を課し、本演習の課題、予習・復習のまとめをポートフォリオを通して、フィードバックを行い学生と共有する。発表は、担当した「レジュメ作成」(10%)及び、「プレゼンテーション」(10%)の内容で評価をする。</p>							
授業の概要							
<p>本演習の授業形式は、自主的な学習成果の発表および討議による授業形態をとるので、学生の主体的な準備の基に、進めていきたい。卒業研究の基礎的な知識の修得に繋げるために科学的方法を学び、文献レビューを深める為に、講読・発表・ディスカッションを行う。「医療」と「福祉」「介護」が常に協働していることの認識を持つために、グループによるプレゼンテーションを行う。 ※この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>参考書：『パソコンで進めるやさしい看護研究』富田真佐子著 保育社 『よくわかる看護研究論文のクリティーク』山川みやえ著 日本看護協会出版会 ※演習の内容やテーマに応じて必要な資料・文献は、適宜紹介する。 指定図書：『トラベルビー人間対人間の看護』長谷川浩著 医学書院</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習のゼミでは、専門的な知識や技術は勿論だが、人と人、心と心を通わせる専門職としての、感性が最も大切である為、その能力を活用していきたいと考える。地道な努力により成長できる事を信じ、一人一人が楽しめる様な工夫を考え共によりよいゼミを創造していける力を養って欲しい。更に、ゼミ生は仲間でもありライバルでもある事を認識し、芯の強さを持ちゼミの目標に向かって計画的に前進されることを強く望む。 注意点：やむを得ない事情で出席できない場合は、事前連絡・相談を行い、代替の履修方法について指導を受けること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション①	自己紹介 ゼミのあり方・進め方について説明 ゼミリーダー等の役割を決め、今後の方針と計画を立案する	予習：シラバスの確認 復習：役割を把握する
2	オリエンテーション②	半期のスケジュールを作成し確認する 文献講読についての発表担当者を決める	予習：計画の補足立案 復習：文献講読を行う
3	オリエンテーション③	文献講読、福祉に関する雑誌等を活用し発表を行い、 ディスカッションを行う	予習：福祉記事を検索 復習：福祉記事をまとめる
4	図書館利用方法	図書館の利用方法と文献検索方法を学ぶ（図書館）	予習：文献検索について調べる 復習：文献検索について整理を行う
5	文献講読法①	レジュメの作成・プレゼンテーション法・ディスカッションの意義（アサーション法）を学ぶ	予習：アサーション法について調べる 復習：発表テーマを考え、レジュメを作成する
6	文献講読法②	アサーション法を理解した上で、与えられたテーマについてディスカッションを行う	予習：指定された資料を読む 復習：ディスカッションのまとめを行う
7	3 福祉士の理解①	与えられたテーマについて、プレゼンテーション資料を作成しグループで口頭発表（発表者）の準備をする（介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士）	予習：発表準備をする 復習：3 福祉士についてのPPを作成する
8	3 福祉士の理解②	グループにてプレゼンテーションを行い、それについてディスカッションを行う	予習：発表準備をする 復習：ディスカッションをして、不足な事柄を調べる
9	論文の基礎	論文の基本について学ぶ（石橋）	予習：論文の手法を調べる 復習：配布資料を整理する
10	文献クリティーク①	文献クリティークを学ぶ（石橋）	予習：クリティークの資料を読んでおく 復習：課題の整理を行う
11	文献クリティーク②	研究論文を読み、グループでクリティークを行う	予習：課題のクリティークを行う 復習：クリティークの整理を行う
12	就職対策	キャリアセンターより講話	予習：履歴書作成をし、進路について整理する 復習：就職ガイダンスの内容を復習する。
13	研究テーマを考える	興味のある資料を探し整理をする	予習：資料を集める 復習：テーマを基に資料を整理する
14	福祉分野を理解する	高齢者施設について考えディスカッションを行う	予習：高齢者施設を調べる 復習：高齢者施設を整理する
15	前期のまとめ	前期を振り返り課題を導きレポート作成し提出 後期ゼミに向け計画案を話し合う	予習：振り返りのレポート作成 復習：後期に向けて整理

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A (DA201)			担当教員	ヴィラーグ ヴィクトル		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では、グローバルな視点の習得と人間の多様性に対する感受性の向上を目指す。そのために必要な思考力・判断力・表現力を、参加型学習を通じて身につけていく。</p> <p>前期は、グローバルに広がる社会問題と、それと繋がるローカルな生活課題に対する理解を深める。その中で、国際ソーシャルワークの基礎知識を得る。</p>							①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	国際的な社会問題に関する資料を解釈できる。				小レポート	20%	
コミュニケーション力	国際的な社会問題について調べ、伝えることできる。 国際的な社会問題について自分の言葉で表現できる。				グループ発表 課題レポート	30% 30%	
協働・課題解決力	国際的な社会問題に関するグループ活動に参加できる。				グループワーク	20%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題レポート (30%) では、国際的な社会問題に関する知識の習得度を評価する。グループ発表 (30%) では、分担する課題について適切にまとめられるかを評価する。小レポート (20%) では、自分の考えを適切にまとめられるかを評価する (文字数不足及び誤字、脱字は減点の対象となる)。グループワーク (20%) では、ディスカッション等への参加態度と貢献度を確認する。</p> <p>必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内でフィードバックを行う。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>本演習では、上記の狙いに沿って、教員が提供する資料 (文献、ミニレクチャー、映像、統計データなど) を基に、参加型ワークとして履修者同士でグループ作業 (ディスカッション、発表、ディベートなど) に取り組む。</p> <p>具体的には、国際比較の視点を前提に、グローバルな社会課題と国内外の移民・難民情勢をテーマに挙げる。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：レジュメ等を配布する。</p> <p>参考書：適宜照会する。</p> <p>指定図書：安保則夫・ほか編 (2005) 『クロスボーダーからみる共生と福祉』ミネルヴァ。</p>							
授 業 外 に お け る 学 修 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と							
<p>日本の社会福祉教育で十分に扱われないテーマを取り上げるため、興味・関心のある学生の履修を期待する。</p> <p>なお、授業内外のグループワーク及び個別ワークが求められるため、その点を十分に考慮した上で選択することを勧める。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、シラバスの説明、参加型ワークの見本	予習：シラバスの熟読と期待の整理 授業内：履修希望理由の振り返り
2	国際的な社会問題①	グローバルな貧困と格差 国際格差に関するディスカッション（前半）	予習：グローバル格差のイメージと呼び知識の整理 復習：配布資料の整理
3	国際的な社会問題②	国際格差に関するディスカッション（後半） 国連開発目標の導入	予習：前回の振り返り 復習：担当課題の準備
4	国際的な社会問題③	国連開発目標の進捗状況とアジア太平洋地域について共有	予習：配布資料の分析 復習：日本との関連性の検討
5	国際的な社会問題④	国連開発目標と持続可能な開発目標 開発と環境問題に関するディベート	予習：開発及び環境問題に関する意見の整理 復習：自身の生活との関連性の検討
6	国際的な社会問題⑤	持続可能な開発目標とグリーンソーシャルワーク（GSW）	予習：日本社会及び経済における持続可能性の検討 復習：日本における GSW の可能性の検討
7	定期面談①	前年度の振り返りと今後の目標、コロナ禍における生活の遠隔教育に関する共有（前半）	予習：面談内容の準備 復習：受けた指導の振り返り
8	定期面談②	前年度の振り返りと今後の目標、コロナ禍における生活の遠隔教育に関する共有（後半）	予習：面談内容の準備 復習：受けた指導の振り返り
9	国際的な社会問題⑥	児童労働と消費者行動 寸劇の公演、全体ディスカッション	予習：寸劇の練習をする。 復習：各自で意見文を書く。
10	国際的な社会問題⑦	児童労働とグローバル化する経済事例を基に寸劇（前半）	予習：グローバルな児童労働の原因の検討 復習：寸劇の脚本作成
11	国際的な社会問題⑧	事例を基に寸劇（後半） 「日本と児童労働」についてディスカッション	予習：寸劇の脚本作成 復習：児童労働と生活の関係について検討
12	国際的な社会問題⑨	「難民体験」のグループワーク 難民の基礎知識	予習：難民のイメージ整理 復習：グループワークの振り返り
13	国際的な社会問題⑩	日本における難民を映像上映 日本の難民受け入れに関するディスカッション	予習：基礎概念の整理 復習：日本の難民の実態に関する意見の整理
14	国際的な社会問題⑪	グローバルな難民情勢と難民受け入れの国際比較 国連映像上映と国内外データの分析	予習：世界的な難民問題の下知れば 復習：難民問題及び支援のポイントの整理
15	国際的な社会問題⑫	期末レポートの共有	予習：期末レポートを書く。 ※ 期末レポートを授業内で提出する。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A (DA201)			担当教員	妻 孝承		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習は「高齢者福祉」をテーマとして扱う。『高齢者白書』を分担発表することで高齢社会の概要を理解する。さらに、支援の必要な高齢者に関わる社会問題についてビデオを鑑賞し、受講生同士で応策や課題についてディスカッションする。これらのことを通して、支援を必要とする高齢者の思いや痛み、社会においてどういった問題が起こっているのか考察できるようにする。							⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	高齢社会の現状や高齢者に関わる課題について理解し、説明することができる。				発表・ディスカッション・レポート	20%	
情報収集、分析力	資料を収集し、社会において支援を必要とする高齢者に関わる課題についてその要因、対応策について考察することができる。				発表・ディスカッション・	20%	
コミュニケーション力	受講生同士わからないことや自分の考えを伝えることができる。				発表・ディスカッション	25%	
協働・課題解決力	受講生で協力して資料収集、発表資料を作成することができる。				資料作成・ディスカッション	25%	
多様性理解力	様々な生活課題を抱える支援の必要な高齢者及び、支援をする家族の思いや悩みを理解できる。				ディスカッション・レポート	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
本演習では、授業の参加度、グループ作業（資料作成、プレゼンテーション）、ディスカッションの態度や内容、授業内に記述する期末レポートを評価の対象とする。発表のフィードバックを授業内で行う。							
授業の概要							
本演習は「高齢者福祉」をテーマとしている。高齢社会の現状を調べたり、高齢者に関わる社会問題についてディスカッションすることによって、他者と協力し課題解決する力や自分の意見を述べる力を高める。さらに、高齢社会における問題意識を涵養することを目的としている。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に定めない 参考書：田中共子編（2019）『よくわかる学びの技法 第3版』ミネルヴァ書房 指定図書：内閣府（2017）『高齢者白書』							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習では「高齢者福祉」をテーマとした発表や課題に対するディスカッションを通して、4年次の卒業論文作成にむけて、問題意識を涵養してもらいたい。高齢期の生活課題は誰もが直面する課題である。将来、高齢者福祉分野での就職を考えている人や高齢者の抱える生活課題に関心を持っている人はもちろん、まだ将来について漠然と考えている人も、自身の問題としてこの演習に臨んでほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介、今後の予定、本演習の進め方について説明する	予習：特になし 復習：授業で伝えたことを確認する
2	高齢社会の現状と課題①	『高齢者白書』の担当章の要点をまとめて、発表資料を作成する。資料はポートフォリオにアップする。	予習：特になし 復習：担当章を読みこみ資料を作成する
3	高齢社会の現状と課題②	『高齢者白書』の担当章の発表。高齢社会の現状と課題を理解する。	予習：『高齢者白書』の第1章を読みこむ 復習：発表資料を確認
4	高齢社会の現状と課題③	『高齢者白書』の担当章の発表。高齢社会の現状と課題を理解する。	予習：『高齢者白書』の第2章を読みこむ 復習：発表資料を確認
5	高齢社会の現状と課題④	『高齢者白書』の担当章の発表。高齢社会の現状と課題を理解する。	予習：『高齢者白書』の第3章を読みこむ 復習：発表資料を確認
6	高齢社会における問題について議論する①	高齢者福祉分野の課題についてのビデオを見て、ディスカッションする	予習：特になし 復習：ビデオ、ディスカッションの内容を振り返る
7	高齢社会における問題について議論する②	高齢者福祉分野の課題についてのビデオを見て、ディスカッションする	予習：認知症について調べる 復習：ビデオ、ディスカッションの内容を振り返る
8	高齢社会における問題について議論する③	高齢者福祉分野の課題についてのビデオを見て、ディスカッションする	予習：認知症について調べる 復習：ビデオ、ディスカッションの内容を振り返る
9	高齢社会における問題について議論する④	高齢者福祉分野の課題についてのビデオを見て、ディスカッションする	予習：自己決定とはなにかについて考える 復習：ビデオ、ディスカッションの内容を振り返る
10	高齢社会における問題について議論する⑤	高齢者福祉分野の課題についてのビデオを見て、ディスカッションする	予習：ターミナルケアについて調べる 復習：ビデオ、ディスカッションの内容を振り返る
11	高齢社会における問題について議論する⑥	高齢者福祉分野の課題についてのビデオを見て、ディスカッションする	予習：特になし 復習：ビデオ、ディスカッションの内容を振り返る
12	高齢社会における活動①	社会活動（ボランティア）を通して、高齢社会について理解する	予習：活動の意味について調べる 復習：振り返りシートを提出する
13	高齢社会における活動②	社会活動（ボランティア）を通して、高齢社会について理解する	予習：活動の意味について調べる 復習：振り返りシートを提出する
14	前期授業内容の振り返り①	前期の演習で学んだことをレポート（期末レポート）にまとめる。レポートはポートフォリオにアップする。	予習：前期の授業内容を振り返る
15	前期授業内容の振り返り②	レポートの内容を受講生同士で共有し、高齢者福祉における新たな課題を見つける	予習：前期の授業内容を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A			担当教員	久田 貴幸		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
社会福祉の実践においては、幅広い教養や知識と豊かな人間性を持ち、多角的な視点でクライアントを捉えることが重要である。本演習では、社会福祉実践の基礎となる専門職者の豊かな人間性や介護福祉、社会福祉、精神保健福祉等の専門職者として必要な知識を題材として取り上げ、文献や資料の検索、文献の購読等をもとに自身の考えをまとめ、ディスカッションやプレゼンテーションができるようになることを目的とする。							④⑤⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・社会福祉の領域で自身の関心に合わせたテーマ設定ができ、わかりやすく簡潔に説明することができる。				レポート提出	10%	
情報収集、分析力	・自身の関心に合わせた文献検索等の情報収集を行うことができ、問題や課題を明確にすることができる。 ・収集した情報について理解し、分析することができる。 ・インターネットを活用して情報集ができる				レポート提出	15%	
コミュニケーション力	・自身が調べた内容や意見をわかりやすく他者にプレゼンテーションできる。 ・他者のプレゼンテーションの内容に関心を持ち、自身の意見を踏まえて質問することができる。				授業におけるリフレクション	50%	
協働・課題解決力	・グループの課題に責任感を持って参加することができ、役割を自覚して活動することができる。				授業におけるリフレクション	20%	
多様性理解力	・自身の考え方や意見の傾向性を踏まえて、違う意見を受け入れることができる				授業におけるリフレクション	5%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験は行わず、15回の授業内で行うレポート提出25%、授業におけるリフレクション65%で評価する。レポート課題については、演習前半で提示するグループでのレポート課題への取り組みと貢献度をもとに評価する。授業におけるリフレクションでは、各学生が自身の興味関心に沿ったテーマで作成したレジュメの内容で評価する。レポート等へのフィードバックは、manabaやE-mailを用いて行う。							
授業の概要							
ゼミ形態での授業を基本とし、グループ課題やディスカッションを多く取り入れる。前半は、指定した介護福祉、社会福祉、精神保健福祉に関連するテーマについてグループで協力して課題レポートを作成する。レポート作成に取り組む中で、文献・資料の検索方法や、レジュメ・レポートのまとめ方について体験的に理解する。後半は、各学生の興味関心に沿ったテーマを選び、それぞれの関心に沿ってレジュメを作成して発表する。レジュメ作成・発表の過程において、自身の興味関心を深め、他者に伝わりやすいプレゼンテーションの方法を学ぶ。また、グループ課題や、発表内容に関するディスカッションを通して、学生同士の意見交換を積極的に行い、学びをより深め合う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない 参考書：必要に応じて配布か適宜指示を行う。 指定図書：石井一成『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』（2011）ナツメ社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業に主体的にかつ責任感を持って参加することを期待する。受講生同士の関わり合いを通して、自身の学びや考えを深め卒業研究に向けての意欲と知識、研究基礎力を身につけてほしい。そのため、授業全体を通して他の学生の意見を尊重しつつ自身の考えを積極的に主張することを心掛けてほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション①	自己紹介および本演習の進め方や、評価方法について確認する。また、前期のスケジュールを確認・作成する。	予習：シラバスの確認 復習：作成した前期スケジュールの確認
2	オリエンテーション②	作成したスケジュールをもとに、年間を通した目標の確認を行う。	予習：前期のスケジュールをもとに、個人の年間目標を作成しておく
3	オリエンテーション③	レポート課題の進め方について説明し、ポート・レジユメの作成手順やディスカッションのポート・レジユメ等について方法について学ぶ。	予習：これまで作成したレポート・レジユメ等について復習しておく
4	グループディスカッションとレポート課題①	文献・資料の検索方法とまとめ方について学ぶ。レポートの課題に関するディスカッションを行い、仮説を立てる。	予習：図書館の利用方法・文献検索の方法の確認 復習：グループ内で立てた仮説について自身の考えを整理しておく
5	グループディスカッションとレポート課題②	レポートに必要な資料を検索し、グループ内で役割分担を行う。	復習：役割分担部のレポート作成
6	グループディスカッションとレポート課題③	各自が担当した部分をすり合わせ、グループごとに1つのレポートにまとめ、全体の調整を行う。	予習：自身の担当部分について、メンバーに説明できるよう準備しておく
7	グループディスカッションとレポート課題④	グループごとにまとめたレポートをもとに発表を行う。発表を受けて全員でディスカッションを行う。	予習：発表準備・練習 復習：ディスカッションで指摘を受けた部分についてまとめておく
8	グループディスカッションとレポート課題⑤	ディスカッションでの指摘を踏まえて最終的なレポートを作成する。それまでの取り組みに対する省察や不足していた視点についてまとめる。	予習・復習：これまでに使用した資料等の見直し
9	プレゼンテーションのテーマ選定	自身の興味関心のあるテーマについてキーワードを見つけ、関連する文献・書籍等を検索、発表時に使用する題材を選定する。	予習：自身の興味関心のあるテーマについてのキーワードをあげておく 復習：文献・書籍の選定
10	プレゼンテーション①	作成したレジユメをもとにプレゼンテーションを行い、発表内容についてディスカッションする。	予習：(担当者) 自身の選定した題材についてのレジユメを作成する
11	プレゼンテーション②	作成したレジユメをもとにプレゼンテーションを行い、発表内容についてディスカッションする。	復習：(担当者) ディスカッションでの指摘について自分の考えをまとめる (受講生) 発表内容をもとに自身の考えとの相違点について検討する
12	プレゼンテーション③	作成したレジユメをもとにプレゼンテーションを行い、発表内容についてディスカッションする。	
13	プレゼンテーション④	作成したレジユメをもとにプレゼンテーションを行い、発表内容についてディスカッションする。	復習：これまで学んだ内容を振り返り、自身の考えをまとめておく
14	進路について	これまでの学習、発表内容等についての省察を加え、自身の考えを整理する。実習や就職について具体的にイメージし、自身の進路について考える。	予習：自身の進路について具体的にイメージしておく
15	前期のまとめ	前期に作成したスケジュール・目標をもとに、学生個々人の達成点、課題点について振り返り、夏休みと後期のスケジュール・抱負等を確認する。	予習：前期スケジュール・目標の再確認 復習：前期の振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A (DA201)			担当教員	梅野 潤子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習の目的は、生活支援を通して子どもの人権を護る、児童ソーシャルワークに必要な基本的考え方(価値)と知識を習得することにある。ディプロマポリシーに掲げられる社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を活用し、主体的に問題解決を行う力を養成するために、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション等の参加型学習を行う。</p> <p>前期においては、子どもの権利とそれを取り巻く社会問題についての理解を深める。さらに、社会問題・生活問題に対応するための子どもの参加と協働及び、その手段として必要となる子どもとのコミュニケーションについて学ぶ。このような学修を通じて、子どもの参加する権利を尊重したソーシャルワークの実践基盤を得る。</p>							①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	子どもの人権に関する社会問題・生活問題とその解決に向けた参加・協働に関する資料を収集し、解釈したことを文章や図表で示すことができる。			第7回・第11回 小レポート		15%	
コミュニケーション力	子どもの人権に関する社会問題・生活問題について調べた結果を、プレゼンテーションを通じて他者に伝えることができる。 子どもの権利や子どもの参加・協働について学んだ成果を、自分の言葉で表現することができる。			第7回グループ発表 期末課題レポート		30% 30%	
協働・課題解決力	社会問題の解決や生活支援の過程における子どもの参加・協働をテーマとしたグループ活動に、主体的に参加することができる。			グループワーク		25%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>期末の課題レポート(30%)では、子どもの権利や子どもの参加・協働に関する学びの習熟度を評価する。グループ発表(30%)では、分担する課題について適切にまとめ、他者に情報を伝えることができるかを評価する。小レポート(15%)では、レポート作成のルールを守った上で、自分の考えについて適切に文章表現をすることができるかを評価する。グループワーク(25%)では、ディスカッション・作業等への参加態度とグループへの貢献度を重視する。必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内においてフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>本演習では、上記のねらいに沿って、担当教員が参考文献、視聴覚資料、統計資料等をもとに情報提供を行う。それらを踏まえ、受講生がグループワーク(ディスカッション、発表、課題制作等)に取り組む参加型の授業である。</p> <p>具体的には、子どもの権利とそれを取り巻く社会問題・生活問題について取り上げ、さらに課題解決のための子どもの参加と協働をテーマとする。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業内で配布する資料を用いる。 参考書：適宜紹介する。 指定図書：小口尚子・福岡鮎美(1995)『子どもによる子どものための「子どもの権利条約」』小学館。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>児童福祉分野の価値基盤となる子どもの権利をテーマとして取り上げるため、児童福祉やスクールソーシャルワーク等、子どもの生活支援に興味・関心のある学生の履修を期待する。</p> <p>授業内外のグループワーク及び個別ワークが求められ、その取り組み状況が評価対象となるため、その点を十分に踏まえた上で選択することを勧める。</p> <p>なお、子どもの権利に関する子ども向け情報(絵本やインターネットコンテンツ等)や子どもとのコミュニケーションツールは、英語で提供されている場合がほとんどである。それらの内容を把握するために、中学校・高等学校で学習する程度の英語を授業内で用いることがある。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	科目担当者の自己紹介、シラバスの説明を行う。受講生の自己紹介や、本演習の履修を希望した理由等に関するディスカッションを行い、本演習で実施する参加型ワークを体験する。	予習：シラバスを熟読し、本演習を履修した理由や学びたいこと等を整理する。
2	子どもの権利とは①～子ども・青年の声～	子どもの権利とは何かについて考えるために、子ども・青年の意見を紹介する。子ども・青年の声を踏まえ、受講生同士でディスカッションを行う。	予習：子どもの権利に関するイメージや知識をノートにまとめる。 復習：子どもの権利に関する疑問点をまとめる。
3	子どもの権利とは②～子どもの権利の歩み～	子どもの権利形成の歩みについて紹介する。児童福祉・社会福祉の歴史と結びつけて理解を深めるために、受講生同士でディスカッションを行う。	予習：これまで学んだ児童福祉・社会福祉の歴史に関する内容を復習する。 復習：子どもの権利の歩みについて整理する。
4	子どもの権利とは③～国連児童の権利に関する条約～	国連児童の権利に関する条約とその内容について紹介する。条約の内容に関する理解を深めるために、グループワークを行う。	予習：国連児童の権利に関する条約について調べる。 復習：権利条約の内容について整理する。
5	子どもの権利に関する社会問題・生活問題①	子どもの権利に関する社会問題・生活問題について、受講生が調べた新聞記事の内容について情報共有を行う。関心のあるテーマに沿ってグループ編成を行い、役割分担を決める。	予習：子どもの権利に関する社会問題・生活問題を取り上げた新聞記事を調べ、授業に持参する。 復習：グループの役割分担に従って情報収集を行う。
6	子どもの権利に関する社会問題・生活問題②	グループで設定したテーマに即して、情報共有・意見交換を行う。グループごとに、調べた結果やディスカッションの結果等を整理し、発表資料を作成する。	予習：グループの役割分担に従って情報収集を行う。 復習：グループ発表資料の作成。
7	子どもの権利に関する社会問題・生活問題③	グループごとに、作成した資料に基づいて発表を行う。グループワークの取り組み状況について振り返り、自己評価を行う。	予習：グループ発表の練習を行う。 復習：小レポートを作成する。
8	課題解決に向けた子どもの参加と協働①	権利条約に関する子ども向けインターネット動画を視聴し、子どもに対する情報提供の在り方について学ぶ。権利条約に関する子どもに対する情報提供について、グループディスカッションを行う。	予習：子どもの権利に関する子ども向け情報をインターネット検索する。 復習：子どもに対する情報提供に関する意見をまとめる。
9	課題解決に向けた子どもの参加と協働②	学校教育と子どもの健康を巡る課題に対して、中学生が取り組んだ事例について紹介する。事例について、グループディスカッションを行う。	予習：事例に関するインターネット動画を視聴する。 復習：グループディスカッションの内容を権利条約と結びつけて整理する。
10	課題解決に向けた子どもの参加と協働③	ソーシャルワーカーが個別支援において子どもと協働した事例を紹介する。事例について、グループディスカッションを行う。	予習：児童福祉分野の支援事例を調べる。 復習：グループディスカッションの内容を権利条約と結びつけて整理する。
11	課題解決に向けた子どもの参加と協働④	第7回の授業時にグループ発表を行った社会問題・生活問題を取り上げ、どのように子どもの参加と協働を推進するかについてグループディスカッションを行う。	予習：第7回のグループ発表・小レポートの内容を踏まえ、各自アイデアを考える。 復習：小レポートを作成する。
12	子どもとの効果的コミュニケーション①	子どもとのコミュニケーションに関する基本的知識を学ぶ。特に、描画や遊び、絵本、インターネット動画等の役割について理解する。	予習：子どもとのコミュニケーションの留意点について調べる。 復習：子どもと情報共有する際に有効なツールの役割を整理する。
13	子どもとの効果的コミュニケーション②	受講生が調べた子どもと用いるコミュニケーションツールについて共有する。子どもに向けて権利条約の内容を情報提供する際の具体的なツール（絵本やポスター等）をグループごとに考える。	予習：子どもと情報共有する際に有効なツールの具体例を調べる。 復習：グループの役割分担に即して作業を進める。
14	子どもとの効果的コミュニケーション③	子どもに向けて権利条約の内容を情報提供する際の具体的なツール（絵本やポスター等）をグループごとに考え、制作する。	予習：グループの役割分担に即して作業を進める。 復習：グループ発表の準備を行う。
15	子どもの参加する権利を護るソーシャルワークの基盤	グループごとに制作した成果物を発表し、提出する。これまでの授業内容のまとめを行う。 ※課題レポートの提示	予習：グループ発表の準備を行う。 復習：課題レポートを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A (DA201)			担当教員	星野 秀治		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>家族制度や医療システムなどの社会制度は、それぞれの文化の多様性と普遍性を前提として成り立っている。本演習は、文化人類学による社会制度への分析を学ぶことで、人間や文化の多様性に対する理解を深め、多様な立場の人々と相互理解を図ることができるようになることを目標とする。また、文献の講読・演習を通じて、議論の仕方、プレゼンテーションの方法、資料の作成方法、文献・資料の検索方法などについても学び、今後の発表、卒業論文作成に必要なスキルを身につける。</p> <p>前期は、通過儀礼、宗教、病気と医療をテーマとし、様々な社会制度がどのような前提に基づいているかについての理解を深める。</p>							①②③ ⑤⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思ったテーマについて、資料を収集することができる。 問題について客観的に分析する姿勢をもつことができる。 					レポート	30%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを発表し、議論することができる。 文章で適切に表現することができる。 					発表内容・資料 授業への参加度	40% 10%
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 自分と異なる立場を尊重し、建設的な議論ができる。 					授業への参加度	20%
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験は行わず、発表内容・資料（40%）、授業への参加度（30%）とレポート（30%）で評価する。発表や授業への参加度においては、議論の仕方、プレゼンテーションの方法、資料の作成等を評価する。レポートにおいては、資料収集、客観的な分析、自分の考えの掘り下げができたかについて評価する。必要に応じて、授業内外でコメントし、フィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>本演習は、ゼミ形態での授業を基本とし、文化人類学や社会制度についての文献や資料を講読し、議論する。</p> <p>具体的には、テキストのテーマ（通過儀礼、病気と医療、死生観、コミュニティなど）について、担当者に該当部分の要約等を報告（内容については事前に相談等にのります。また複数名による報告もありえます）してもらい、そのテーマについて、参加者全員で議論をするという流れをとる。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：波平恵美子編集（2011）『文化人類学（カレッジ版）』医学書院</p> <p>参考書：適時指示する。</p> <p>指定図書：松本茂ら著『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習では、文化人類学のテキストを議論の足がかりとするが、授業外でも、他の領域の専門書や、古典といわれる小説・映画にたくさん触れて欲しい。また、学生時代ならではの体験をたくさんして授業に還元して欲しい。</p> <p>みんなで議論しながら、お互いに、考える力を伸ばしていくことができたらと思っている。自分と異なる考えを尊重しつつ、自分の感じた小さな違和感を大切にしたい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の進め方やシラバスの説明をする 各自の自己紹介をする 前期のスケジュールの策定し、報告分担を仮設定する	予習：シラバスを確認する 授業内：履修希望理由を述べる。分担を仮設定する
2	先住民の社会	映像をみる（前半） 映像についての感想をシェアする	予習：教科書の章立てを理解しておく。 復習：各自の感想を整理する
3	先住民の社会	報告分担を確定する 映像をみる（後半） 映像についての感想をシェアする	予習：先住民について調べておく 授業内：分担を確定する
4	通過儀礼と境界理論	教員による資料作成・報告をする 議論の仕方についての学ぶ 文献検索の方法（図書館など）について学ぶ	予習：4章Aを読む 復習：境界理論について復習する
5	ライフサイクルと境界理論	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：4章Bを読む 復習：ライフサイクルと境界理論の復習する
6	儀礼の構造 （担当2人）	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：4章Cを読む 復習：身近な儀礼について考える
7	通過儀礼とコミュニタス	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：4章DEを読む 復習：モラトリアムについて振り返り
8	文化人類学と「宗教」	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：5章Aを読む 復習：日本人と宗教について振り返る
9	儀礼研究	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：5章Bを読む 復習：身近な儀礼について振り返る
10	トランスナショナル時代における宗教と世界観	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：5章Cを読む 復習：宗教と世界観について振り返る
11	健康と身体	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：6章Aを読む 復習：健康の意味の文化的多様性について振り返る
12	病気と治療	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：6章Bを読む 復習：治療の意味と目的について振り返る
13	医療の体系	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：6章Cを読む 復習：「医療の文化的体系」について振り返る
14	環境と健康	担当者による資料作成・報告をおこなう 全体での議論をおこなう	予習：6章Dを読む 復習：遺伝的適応と文化的適応について振り返る
15	前期のまとめ	期末レポートの共有をおこなう	予習：期末レポートを書く ※ 期末レポートを授業内で提出する